



法人会は「企業の発展を支援し、地域の振興に寄与する経営者の団体」！

会員増強運動実施中

特別講演会&年末懇親パーティー

日 時 令和7年12月2日(火)

特別講演会 午後2時30分～4時00分
年末懇親パーティー 午後4時15分～5時30分

会 場 ANAクラウンプラザホテル新潟

特別講演会 3階「飛翔」
年末懇親パーティー 2階「芙蓉」

参加料 1名 6,600円(講演会のみでも1名6,600円です。)

会員以外の方も、お申し込みいただけます。

(お申込みは事務局まで)

講 師 さい ま すみ 崔 真 淑 氏

エコノミスト(博士)
東証プライム アイモバイル社外取締役

テーマ 「地方経済の今
～経済学から考える地域活性化～」

消費税期限内納付

法人会 一声運動

新潟市中央区西堀通
3番町258番地24
新潟法人会
電話 (223)-1242
FAX (225)-5699



役にたつホームページ

令和
7年度

優良経理担当職員表彰式



【令和7年度】

優良経理担当職員表彰式

令和7年10月23日にホテルイタリア軒3階サ
ンマルコで、「令和7年度 優良経理担当職員
表彰式」を開催いたしました。

新潟市内の会員企業から推薦された経理担当
職員32名が表彰されました。当日は23名の受彰
者と企業の役員や上司7名の皆様が出席され、
新潟税務署長の伏木生祐子氏を来賓にお迎えし
て、賞状と記念品の授与式が行われました。

受彰者を代表して、株式会社三幸の星野光俊
次長が謝辞を讀上げ、表彰式は閉会となりました。
表彰式後には、新潟税務署長の伏木生祐子氏が、

「税務行政に
おけるDX（
税務行政の将
来像の実現に
向けて」と
題して特別講
演を行って
くださいまし
た。

以上

優良経理担当職員表彰式 受彰者名簿

令和7年度

法 人 名	氏 名	法 人 名	氏 名
(株) ウメザワドライ	富樫麻有子 様	橋本商事 (株)	櫻井しのぶ 様
(株) 小川	鈴木 貴子 様	(株) 福地設計	浜田 明美 様
(株) 小川	三浦 祐子 様	福田道路 (株)	福田 明子 様
(株) 興和	竹内 香織 様	福田道路 (株)	原 哲也 様
(株) 興和	佐藤 恵 様	福田道路 (株)	相田 和枝 様
(株) 三幸	星野 光俊 様	福田道路 (株)	井上千寿子 様
(株) 高助	皆川 良子 様	(株) 村尾技建	小山 優 様
(株) 高幸	外山 千夏 様	(株) 柳都入船	草野 麻衣 様
第三貨物自動車 (株)	渡辺 淳 様	タイヨー運輸 (株)	津々木真華 様
第三貨物自動車 (株)	長沼紗代子 様	(株) 高清	曾川 毅彦 様
(株) ナルサワコンサルタント	山川恵利子 様	(株) 赤川組	大花さおり 様
(株) ナルサワコンサルタント	幸田 圭子 様	新潟中央運送 (株)	山村 大樹 様
新潟信用金庫	前田 和美 様	(有) レンタルシステム	森田ゆかり 様
新潟通運 (株)	中町 真弓 様	(株) 吉運堂	中村 正子 様
J R新潟鉄道サービス (株)	齋藤 幸美 様	(株) ジェイ・ピー・エス	阿部 美雪 様
J R新潟鉄道サービス (株)	大島 雅未 様	(株) ジェイ・ピー・エス	小野由香里 様

※法人会員番号順に掲載させていただいております。

第14回（令和7年度） 税に関する絵はがきコンクール 受賞作品

新潟法人会では、14回目の開催となる「令和7年度税に関する絵はがきコンクール」を開催いたしました。

9月19日の締切りには、新潟市内の小学校28校から882件の作品の応募があり、公正な審査の結果、金賞、銀賞、銅賞、優秀賞、新潟税務署長賞、新潟市租税推進協議会長賞が決定しました。

小学生の皆さんが租税教室の授業を受けて、税について感じたことや考えたことを、絵はがきに明るく、楽しく表現してくださいました。次回もより多くの生徒さんの参加を希望しています。



〈銀賞〉 鳥屋野小学校
佐々木玲奈さん



〈金賞〉 濁川小学校
五十嵐仁悠さん



〈銅賞〉 真砂小学校
小林優真さん



〈新潟税務署長賞〉
牡丹山小学校 野崎穂子さん

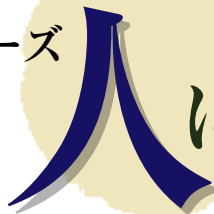


〈新潟税務署長賞〉
桜が丘小学校 神田芽依さん



〈新潟市租税教育推進協議会長賞〉
鏡淵小学校 堀祐実佳さん

シリーズ



このシリーズは新潟発で活躍されている方々をご紹介します。

にいがた発見 その2

現在の事業、そして、

これからの構想

合同会社P&U

代表社員

遠藤 卓実さん



プロフィール

氏名 遠藤 卓実（えんどう たくみ）
1984年 新潟市北区生まれ
2005年 新潟工業短期大学卒業（自動車整備士）
2008年 MotoGP世界選手権ワイルドカード参戦
2009年 ドイツ国際選手権参戦（3位表彰台）
2013年 （有）OTS 事業再構築完了（黒字転換）
2013年 起業（ドイツ・デュッセルドルフ）
2022年 事業全部譲渡（ドイツ・デュッセルドルフ）
2022年 遠藤工業所（家業）承継
2023年 合同会社P&U 設立（法人成り）

—— 前回に引き続き、合同会社P&U 代表社員の遠藤卓実さんにお話を伺います。前号ではレーサーとしての歩みを中心にご紹介しました。今号は、引退後から現在の事業、そして、これからの構想について。まず、引退後はどのように過ごされましたか。

2010年に現役を引退し、翌年1月から、スポンサーだった福島県住宅関連企業に就職しました。家電の配達や新築住宅の最終作業など、現場で汗を流す毎日です。ところが3月11日、東日本大震災が発生しました。私はたまたま休みだったので自宅にいましたが、激しい揺れで壁が割れ、外に出たら地面は裂けていて。原発事故も重なり、会社の仕事は完全に止まりました。「今、自分にできることを」と、石巻市のボランティア活動に参加したり、近所の方を車で新潟へ送迎したり、福島と新潟を往復しながら、できる範囲で支援を続けました。

—— 新潟へ戻られたきっかけは？

母校・新潟工業短期大学の恩師から、「知人の会社が厳しい。手を貸してあげてほしい」と声がかかりました。話を聞くと、その社長が病気で余命3カ月と宣告されていて、初対面の私に（有）OTSの会社の行く末を託したいと。事業内容は、フォルクスワーゲンやアウディなどの外車の整備。私は2級自動車整備士の資格を持っていたので、店長・従業員

2人と一緒に会社の立て直しに挑みました。荒れた店内を整え、広報活動としてブログで発信し、朝7時から深夜2〜3時まで働く日々を2年間続けました。幸い、社長はセカンドオピニオンによる治療のかいもあって回復の兆しがあり、私もドイツ出張に同行して取引先の新規開拓を試みました。体制が整ったところで私は務めを終えると、「もう一度ドイツで事業をやりたい」という自分の夢を実現するために舵を切りました。

—— ドイツで、どのような挑戦を？

まずは、ビザが取れるまでの期間、毎日寝る間を惜しんでドイツ語の勉強をしました。その結果、ドイツ語検定試験で中級まで合格することができて。現地の役所でも語学力を認めてもらい、無事にビザを取得し、そこから個人事業主としてフィットネスジムの開業しました。日本企業で働く海外駐在員の健康管理をメインに、整体とパーソナルトレーニングを提供する複合施設です。私自身が興味を持っていたアスリートのケアにも携わり、2021年東京五輪に出場した馬術選手のコンディショニングも担当することができました。しかし、軌道に乗り始めた矢先、新型コロナウイルスの流行によって事業はストップ。一時帰国して新潟に帰ってくると、父も大変な状況になっていました。

—— どんな状況でしたか？

父は、新潟市江南区で自動車製造

業の下請けを約35年間続けてきました。当時すでに70代でしたが、従業員が辞めても「自分でやるしかないんだ」と、朝3時から夜10時まで働き詰め。個人事業ゆえに制度整備も遅れていて、三十数年の間に売上げが3分の1に。一方で、従業員の賃金は年齢に応じて上げる必要があり、どう考えても持続が難しい状況でした。「これは放っておけない」と胸が締め付けられる思いで、私はドイツの事業を施設ごと売却し、2022年9月に帰国。父の会社の従業員と仕事を引き継ぎ、新しく合同会社P&Uを設立しました。引き継いですぐ、万が一の資金調達も視野に法人化を選びました。今思えば、その時に新潟法人会に入っていれば相談できていたかもしれませんね。

——事業承継後、何から手を付けましたか？

現場に立ちながら、まずは数字を徹底的に見直しました。エクセルで細かく試算し、構造的に赤字であることを明確にしました。その上で元請け企業へ伺い、「この条件のままでは存続が難しい。辞退させてください」と頭を下げました。三十数年のご恩に感謝を伝え、これで終わりたいと思っていたら、「では、いくらならいいのか」と逆に聞かれたのです。必要単価と根拠、将来的な従業員の昇給を織り込んだ中長期の見通しを提示し、理解をいただいて再出発することができました。現在は



門構アッセンブル作業

受注量が約3倍、新しいラインも任せ、従業員数は2・5倍に。

2025年を迎え、ようやく私自身の報酬も確保できるようになりました。父の代からの仲間と新しい仲間、今の時代に合った仕様へのアップデートを進めています。

——現在はオートバイに関わる取り組みも進めているそうですね。

新潟市西区の小針浜で「RIDER, S.T.A.T.I.O.N」というイベントを行なっています。きっかけは、西区のまちづくり事業でした。事業承継の直後、会社は100%一つの元請け企業に依存する体制であり、正直、私は眠れないほどの不安を抱えていました。それと同時に日に日に強くなっていたのは、自分の原点でもあるオートバイの世界をきちんと社会につなげたいという思いです。そんな時に、西区役所地域課五十嵐様より、「遠藤さん、街を盛り上げられないだろうか」とお声がけをいただきました。レーザー時代に

培ったネットワークや、機械と体の両面から人を支える経験を、地域のにぎわいづくりに生かせないかという発想から始めました。

——どのような企画ですか？

最初に考えたのは、「県外から来たお客さんたちに、新潟の魅力の一つである『海に沈む美しい夕日』を前面に出したい」ということ。潮風、波の音に、オートバイ文化を重ね合わせ、海岸線に道の駅をつくる構想を思い描きました。新潟で海沿いにある道の駅は限られていて、「海×夕日×人の交流」を中心にした拠点ができれば地域への誇りになると思い、企画



2024年小針浜開催と夕日

書にも落とし込みました。しかし、公共性の高い大規模構想は調整や時間もかかるものです。そこで、まずは実装可能な部分から一歩を踏み出す方針に切り替え、「RIDER, S.T.A.T.I.O.N」を始めました。

会場は海沿い。最初は、砂の堆積でバリアフリー動線が埋もれてしまう課題に向き合い、重機メーカーとの連携も模索しましたが、砂の扱いなど現実的なハードルが高かった。それなら、「まずは人の流れをつくることを優先しよう」と、野外カフェを核にした集いの場へ発想を転換しました。2024年には1年間で10回イベントを開催して実証し、2025年は企画の意図をより明確にするため「RIDER, S.C.A.F.E」として打ち出しました。運営は全て自前です。臨時営業許可の範



2024年小針浜開催と海辺のカフェ



2024年ライダーと地域住民の交差

囲でコーヒーやスナック、ノンアルコールのカクテルを提供し、3トントラックにテーブルや椅子、簡易シンク、備品一式を積み込んで出勤しました。開催スタイルは、夕景と朝焼けを連続で味わえるように基本は連日。土曜のサンセットに合わせて始め、夜は海辺で静かに店じまいをしてから仮眠をとり、翌早朝5時に再開し、暑さが増す前の午前中に片づけまで終える。そんなタイムテーブルで行っています。

——どんな人が集まりますか。

ライダーが中心ですが、それだけではありません。釣り人、犬の散歩の人、近隣のおじいちゃんおばあちゃん、朝のジョギングの人、通りがかった家族連れなど、立ち寄る理由は人それぞれです。80代の方が「昔



2024年最終回記念写真

はこれに乗っていたよ」とライダーに話しかける。ライダーが自然と耳を傾け、気がつくとき世代や趣味を越えた輪ができています——そんな光景が生まれていました。

私は、イベントを通じて「調和」を目指しています。かつては「騒音・迷惑」と思われがちだったバイクに、「すてきたね」「いいね」と言っても「関係をつくりたい。今では、カフェという「同じテーブルを囲む場」を用意するだけで、偏見は言葉に、言葉は笑顔に変わっていくという手応えがあります。

事業面でも、小さくとも確かな前進が見えてきました。2025年の初回は売り上げが昨年比で約3倍。たまたま同時開催となったジャズイベントとも気持ちよく共存できて、「音楽×カフェ×夕日」という相乗効果で

過去一番のにぎわいになりました。

——今後の展望を教えてください。

「道の駅」という表現は分かりやすいので比喩として使いますが、狙いは公的な巨大施設ではなく、民間主導の「ライダーのための駅」をつくること。つまり、「RIDER, STATION」の常設拠点の実現です。理想の舞台は、歴史ある1000㎡弱の倉庫。屋根を張り替え、壁にペンキを塗ってレンガを積み、自分たちの手で少しずつ息を吹き込んでいく。

イメージの源流は、ドイツで出合った乗り物の文化施設です。石壁の大空間にクラシックカーやバイク、農機具まで並び、中央には誰でも使える気軽でおしゃれなレストラもある。近所の子どもたちが家族と食事をしながら「かっこいい！」と本物に触れられて、生活の延長線上にあるミュージアム。車両の所有者はサブスクのように保管料を支払い、車両を預け、周囲には関連する修理工場やアパレルショップが入る。ドイツは、文化とビジネスが循環する仕組みができていました。スケールは小さくとも、その原型は新潟でもつくれるはずです。私はまず、「バイク版」から始めたいと考えています。

新潟港のフェリーとの親和性も大きな追い風です。関東圏のライダーは北海道へ渡る際、新潟港を使う方が多いと言われています。行きも帰



ドイツのデュッセルドルフに有りますクラシックカーやバイク、農機具等を展示販売する複合施設

りも、必ず寄りたくなる駅があれば、旅の高揚感や余韻をもって新潟で過ごしてもらえ。夕日に一息、コーヒーに二三言。そんな「普通の良い時間」が、地域の経済や文化にも静かに波及していくはず。そのための準備を、今は地道に一つずつ積み重ねています。ライダーが「行きも帰りも寄りたくなる駅」を実現し、夕日と会話が交わる時間を日常にすること。これこそが、新潟という西海岸の魅力、オートバイを通じて社会へつなぐ私の役目だと考えています。

——遠藤さんなら、きっとその夢を実現できるはずです。早く事業用地と多くのスポンサーさんが見つかることを期待しています。今回は一本のドラマを見届けたような熱量を感じました。2回にわたり、ありがとうございました。

ダイレクト納付を利用しましょう！

～ 銀行や税務署で納付する必要がなくなります ～



現金納付からの
卒業をサポート

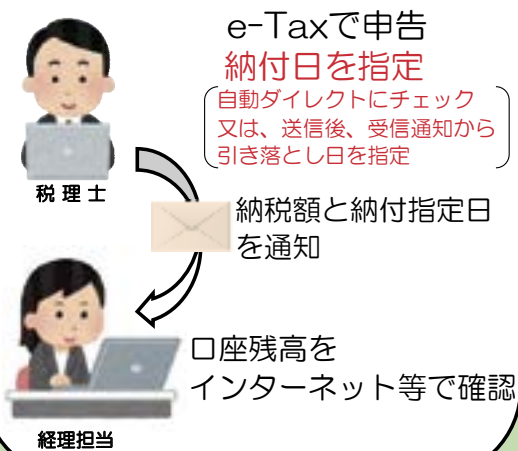
「納付のたびに
銀行や税務署の窓口へ…」

そんな経理担当者の皆さまへ

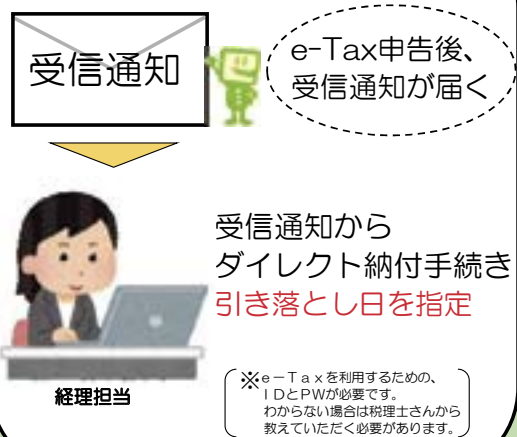
ダイレクト納付の3大メリット

- 現金取扱いが不要 ～納付がスマートに～
- いつでも手続き可能 ～急に銀行等に行けなくなっても安心～
- 指定日に自動的に引き落とし ～口座残高を確認するだけ～

パターン1 税理士にお願いする



パターン2 経理担当が手続きする



利用は簡単！

[パターン1]

- まずは税理士に相談

[パターン2]

- ダイレクト納付利用届出書を提出
※ 届出書の提出後、1か月程度で利用可能
- 体験コーナーでお試し
- e-Tax画面からダイレクト納付手続(約1分)

ダイレクト納付
利用届出書



体験コーナー



随想

夕やけこやけ



わが家の弁当物語



株式会社 DI Palette
(ディーアイパレット)
取締役 常務執行役員
志田征二郎

もともとわが家の朝食担当だったこともあり、長男が中学校に入学した春から弁当作りを始めました。運動部に所属していた長男のために、しっかりと栄養が摂れるよう、ボリウムとバランスを意識して毎朝キッチンに立ちました。高校卒業までの6年間、繊細さのカケラもない私の弁当を文句ひとつ言わず食べてくれました。それは、私にとってかけがえのない時間でした。

嫌いも多く、献立には頭を悩ませる日々。栄養面を考えつつ、見た目や食感に工夫を凝らしましたが、それでも残してやることもあり、試行錯誤の連続でした。

今年から新潟市内の中学校では学校給食が導入され、長女の通う中学校も夏休み明けからスタート。好き嫌いが多い長女が食べられるか心配でしたが、今ではおかわりまでしているようです、ほっとしています。ただ、うれしい反面少し悔しい気持ちもあります。私の弁当は食べきれなかったのに、給食は残さず食べているなんて…と(笑)。

朝の弁当作りがなくなった分、時間に余裕ができてしまい、少し物足りなさも感じていますが、来年、長女が高校生になったらまた弁当生活が戻ってくるかもしれません。それはそれで、また楽しみでもあります。子どもたちの成長に寄り添いながら、私の弁当物語はまだ続いていくのかもしれませんが。

編 集 後 記

あまりに盛りだくさんな内容から2回連載にさせていただいた、P&U代表社員・遠藤卓実さんの「シリーズ人にいがた発見」。オートバイレース引退後の活躍や、今後の構想について紹介した今回も、そのパワフルな行動力と熱い思いが、文面からあふれていることと思います。

実は私自身もかつて、40歳の記念にと中型二輪免許を取り、10年ほどバイクに乗っていました。たいした遠出もしない、街乗り程度のヘタレライダーでしたが、あの一瞬で風を切る爽快感とスリルは本当に得がたいものでした。

単身での渡欧、事業承継、ライダーのための常設拠点づくり。困難をいくつも乗り越えながら夢に挑み続ける遠藤さんに、「心底オートバイが好きなのだ」と驚きを超えて少々あざれた思いも抱きつつ、常に風を切るように走り続けるその生き方には、うらやましさも感じました。

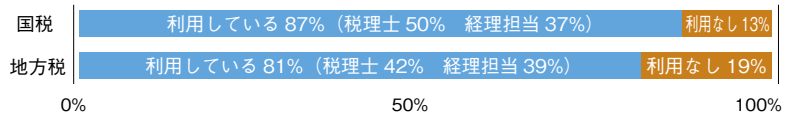
広報委員 与口 幸子

e-Tax(国税)・eLTAX(地方税)
利用アンケート結果

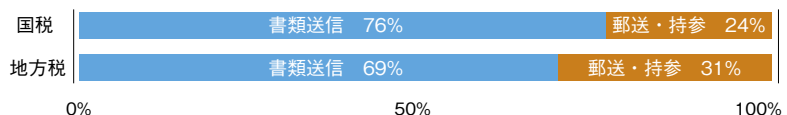
新潟法人会会員の皆様からのアンケートへのご協力ありがとうございました。9月30日時点での調査結果は下記の通りです。未回答の皆様からの回答を引き続き受付けておりますので、FAX、Webでのご協力をお願いします。



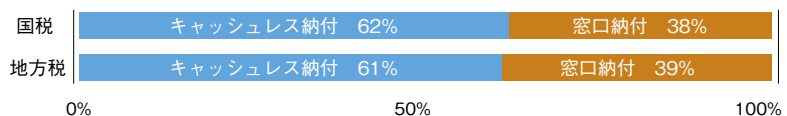
e-Tax・eLTAX 利用状況



添付書類について



キャッシュレス納付利用状況



(サンプル数 227 社)